

「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」平成 30 年度総会 開催

(公社)日本観光振興協会が事務局をつとめる「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」では、観光庁の平成 30 年度「テーマ別観光による地方誘客事業」の一つとして受託を受けた「酒蔵ツーリズム」の事業を推進しており、7 月 6 日(金)に平成 30 年度の総会を開催しました。

冒頭には、会長 細野助博からの挨拶の後、観光庁 観光資源課 深津功貴様、農林水産省 食文化・市場開拓課 課長補佐 嶋根一弘様、経済産業省 クールジャパン政策課 課長補佐 松井洋之様よりご挨拶がありました。

会議では、平成 29 年度の事業報告・決算、平成 30 年度事業計画・収支予算、規約の改正、役員体制の議案が承認されました。

平成 30 年度の事業計画としては、(1)モデル地域推進事業と、(2)会員合同プロモーション事業が主な内容となっています。(1)モデル地域事業では、公募によって 2 地域を選定し、2019 年のラグビーのワールドカップ、2020 年のオリンピック・パラリンピック開催や、訪日客 4,000 万人の目標に向けて、特に日本酒、酒蔵に興味がある外国人観光客への酒蔵の説明ツールの普及、通訳案内士の研修、着地商品化に向けたモニターツアーを実施していきます。(2)会員合同プロモーション事業では、ツーリズム EXPO ジャパン 2018(9 月 20 日～23 日 東京ビックサイトで開催)での酒蔵ツーリズム専用ブースへの 5 地域(姫路市、埼玉県、群馬県利根沼田、東広島市、沖縄県)からの出展、海外旅行会社・メディア向けセミナー、商談会等を予定しております。

役員体制としては、会長に中央大学 総合政策学部教授 細野助博、副会長に(公社)日本観光振興協会 副理事長 久保田穰、株式会社佐浦 代表取締役社長 佐浦弘一、東北・夢の桜街道推進協議会 事務局長 宮坂不二夫という前年度と同様の体制のもと、酒造・交通・旅行・飲食関連企業・団体等の 7 組織が、新たに民間運営委員に就任しました。

また、総会終了後、観光庁より平成 29 年度に実施した「訪日外国人受入に関する酒蔵及び外国人への調査事業」結果の報告が行われました。

今年度から事務局が(公社)日本観光振興協会に変更になったことにより、都道府県等の地方自治体、観光協会、DMO 等と連携をして、酒蔵ツーリズムの普及を進めていきます。



右から細野会長、宮坂副会長、久保田副会長



観光庁より平成 29 年度外国人受け入れ酒蔵調査発表



総会会場